

アカバナ科	ミズユキノシタ <i>Ludwigia ovalis</i> Miq.	アワゴケ科	ミズハコベ <i>Callitriche verna</i> L.
アリノトウグサ科	フサモ <i>Myriophyllum verticillatum</i> L. オグラノフサモ* <i>M. oguraense</i> Miki ホザキノフサモ <i>M. spicatum</i> L. オオフサモ <i>M. aquaticum</i> (Velloso) Verdcourt タチモ <i>M. ussuriense</i> Maxim.	ゴマノハグサ科	キクモ <i>Limnophila sessiliflora</i> Blume ウキアゼナ <i>Bacopa rotundifolia</i> (Michx.) Wettstein
ミツガシワ科	アサザ* <i>Nymphoides peltata</i> (Gmel.) O. Kuntze ガガブタ <i>N. indica</i> (L.) O. Kuntze ヒメシロアサザ* <i>N. coreana</i> (Lev.) Hara ハナガガブタ <i>N. aquatica</i> O. Kuntze ミツガシワ* <i>Menyanthes trifoliata</i> L.	ヒシモドキ科	ヒシモドキ* <i>Trapella sinensis</i> Oliver
		タヌキモ科	タヌキモ <i>Utricularia vulgaris</i> L. var. <i>japonica</i> (Makino) Tamura イヌタヌキモ <i>U. australis</i> R. Br. フサタヌキモ* (絶滅!) <i>U. dimorphantha</i> Makino ノタヌキモ <i>U. aurea</i> Lour. ヒメタヌキモ* <i>U. minor</i> L. イトタヌキモ (ミカワタヌキモ)* <i>U. exoleta</i> R. Br. エフクレタヌキモ <i>U. inflata</i> Walt.

○文献リスト <1996—(3)>

- 市川憲平, 1996. 日本産のコバンムシはなぜヒシに卵を産むのか. *インセクタリウム* 33 (12): 16-20.
- 市円 忠, 1996. 溜池植物の最後を飾るオニバスの花山王池の埋立). *佐賀の植物* (32): 20-21.
- 岩村政浩, 1996. 佐賀県産水草目録 (仮) *佐賀の植物* (32): 31-37.
- 臼井英治, 1996. ショウブ—端午の節句. *遺伝* 50 (6): 56.
- 江口誠一, 1996. 海岸砂丘および後背湿地の植生の成帯構造—南北海道・青森県における例. *植物地理分類研究* 44: 63-66.
- 江成敬次郎・鈴木 淳・杉山智洋・柴崎 徹・佐々木久雄, 1996. 水生植物 (マコモ) を利用した水質改善の試み—伊豆沼の事例— *用水と廃水* 38: 647-655.
- 角野康郎, 1996. 帰化植物による在来の自然への影響—帰化水草を中心に— *関西自然保護機構会報* 18: 115-120.
- 上赤博文, 1996. 絶滅の危機にある植物オニバスとサンショウモの新産地について. *佐賀の植物* (32): 13-15.
- 小宮定志, 1996. 羽生市宝蔵寺沼ムジナモ自生水域における環境の変遷. *食虫植物研究会誌* 47: 37-41.
- 近藤勝彦, 1996. ムジナモの自生地外保全. *生物科学* 48: 123-125.
- 佐竹研一・大八木昭・巖 靖子, 1996. 日本の自然酸性湖沼と酸性河川—強酸性湖宇曾利湖 (pH3.4-3.8) に分布する主な動植物と湖の歴史— *生物科学* 48: 75-81. (30p 下へつづく)



写真3 6月スイレンは葉を広げてきているが、オオサンショウモの姿はまだ見られない。1996年の2月の低温で、ついに姿を見せなかった。(96. 3. 3 写)

いえるようである。

一つはオオサンショウモは夏から秋には大群生し、重なりくっつき合うようになるまで繁殖をする。くっつき重なり合うことは気象変化、寒さを防ぎ、生きていく知

恵の一つではないか。写真1のように上部の葉は茶褐色に枯れるが、内部の葉は緑のままである。1~2月の厳しい寒さで大部分は枯れてしまうが、彼らなりに身につけた生きる術の一つであろうと思われる。

第二はこの池に生えている常緑で葉を広げている栽培種のスイレンとのかかわりである。オオサンショウモは池一面に広がると、スイレンの葉の下まで集団でもぐりこんでいく。第一の知恵のうえにスイレンの葉のカバーができるといっそう冬の寒さが乗り切りやすくなるのである。1995年5月スイレンの葉の下で生き残る成長芽を観察したことがある。

会報59号(1996年10月)の表紙写真の角野氏の解説に“在来種を脅かすスイレン”として山間部の自然度の高い池でも栽培種のスイレンが在来種のヒツジグサを池の隅に追いやりようとしていると書かれているのとは対照的なことで、スイレンが野外に逸出した栽培種を守っていたのである。それにもかかわらず数年間自然池に飛び出していたオオサンショウモは枯れた。もう姿を見せないのだろうか。

〈文献リストつづき〉

須古将宏, 1996. ハスの葉の枯れ方. 佐賀の植物 (32): 3-4.
 田中光彦, 1996. 枚方でタヌキモとヒメタヌキモを見る. Nature Study 42 (5): 10.
 中越信和・安部哲人, 1996. 広島県芸北町八幡地区の湿原植生の変容. 高原の自然史 1: 5-38.
 野島 哲, 1996. 海草藻場群集の多様性と安定化機構. 日生態誌 46: 327-337.
 浜島繁隆, 1996. 名古屋城外堀の水生植物の変遷. ため池の自然 24: 4-5.
 浜端悦治, 1996. 水位低下時に計測された湖岸植生面積. 琵琶湖研究所所報 13: 32-34.
 日置佳之・養父志乃夫・裏戸秀幸・田中 隆・逸見一郎・土屋憲昭, 1996. 水生植物保全のための溜池の生態構造化. 環境システム研究 24: 89-97.
 山中二男・中澤 保, 1996. 四国のイセウキヤガラ. 植物地理分類研究 44: 87-88.
 Nohara, S. & T. Iwakuma, 1996. Pesticide residues in water and aquatic plant,

Nelumbo nucifera, in a river mouth at Lake Kasumigaura, Japan. Chemosphere 33: 1409-1416.

Premasthira, Ch. and S. Zungsontiporn, 1996. Allelopathic potential of gooseweed (*Sphenoclea zeylanica* Gaertn.) in submerged soil. Weed Res., Japan 41: 103-106.
 Takamiya, M., M. Watanabe and K. Ono, 1996. Biosystematic studies on the genus *Isoetes* (Isoetaceae) in Japan. II. Meiotic behavior and reproductive mode of each cytotype. Amer. J. Bot. 83: 1309-1322.
 Yabe, T., I. Ikusima and T. Tsuchiya, 1996. Production and population ecology of *Phyllospadix iwatensis* Makino. II. Comparative studies on leaf characteristics, foliage structure and biomass change in an intertidal and subtidal zone. Ecol. Res. 11: 291-297.